

「使用済自動車・中古自動車の流通状況に関する調査」サマリー

1. 調査項目および調査目的

調査項目	調査目的
(1) オークション流通における低年式車落札状況 リユースオークション開催状況と落札者動向	オートオークション取扱い台数や中古自動車の海外流通動向調査を通じて自動車リサイクル法施行後の使用済自動車・中古自動車の流通状況を把握し、自動車リサイクルシステムの円滑な実施に向けて、輸出を含む使用済自動車の流通実態を把握する。
(2) オークション会員のリユースオークション参加状況	
(3) リユースコーナー出品車両事後登録状況	
(4) 使用済自動車解体能力増加傾向	
(5) 輸出中古車状況	

2. 調査対象および調査期間

調査対象
① 日本オートオークション協議会加盟会場（アンケート発送 132 会場）
② オークション会員（アンケート発送 2,400 会員）

有効回答数
① 日本オートオークション協議会加盟会場（アンケート有効回答 70 会場）
② オークション会員（アンケート有効回答 216 会員）

調査・集計・分析期間
2006年2月：オークション会場およびオークション会員向けアンケート作成および発送準備
2006年3月：オークション会場・オークション会員向けアンケート発送・回収・集計・分析

3. 調査結果概要

(1) オークション流通における低年式車落札状況

◆2005年オークション流通状況

出品台数 800 万台、前年（2004年）に対して 110 万台増加

	出品台数	落札台数	成約率	成約平均単価
2004年	6,819,240 台	3,783,122 台	55.5%	569,000 円
2005年	7,965,534 台	4,118,863 台	51.7%	543,000 円
増減 (前年対比)	+1,146,294 台 (116.8%)	+335,741 台 (108.9%)	—	-26,000 円 (95.4%)

出所：月刊ユーストカー

◆オークション落札台数における低年式車落札状況

リユースオークション開催によってオークション落札台数における低年式・低価格・多走行車台数増加
→ 2005年は2004年と比較して15~20万台落札台数増加

	2004年	2005年	増減
車齢10年以上	590,000 台 15.6%	790,000 台 19.2%	20万台増加 3.6ポイントアップ
落札価格10万円以下	440,000 台 11.7%	580,000 台 14.2%	14万台増加 2.5ポイントアップ
走行距離11万km以上	500,000 台 13.2%	640,000 台 15.5%	14万台増加 2.3ポイントアップ

上段：オークション落札台数推計、下段：オークション落札車両台数（2004年：380万台、2005年410万台）に占める割合

◆リユースオークション市場（オークション会場アンケート）

2005年リユースオークション出品台数推計 80 万台（全オークション出品台数のうち 10%を占める）

2005年リユースオークション出品台数伸び率 191.5%（2004年出品台数推計 41 万台）

リユースオークションは 2005年 4~6 月に流通拡大

2004→2005年落札台数の増加台数はおよそ 24 万台

リユースオークション市場推計

単位：台	2004年	2005年	増減
出品台数	411,379 台	787,862 台	+376,483 台 (191.5%)
落札台数	237,822 台	472,006 台	+234,184 台 (198.4%)
落札率	57.8%	59.9%	+2.1ポイント
成約平均単価	—	49,579 円	—

リユースコーナー出品台数、成約状況、平均成約単価の推移（アンケート結果）

	2004年 1~3月*2	2004年 10~12月	2005年 1~3月	2005年 4~6月	2005年 7~9月	2005年 10~12月
開催会場数	—	25	32	32	33	35
出品台数(台) *1	1872.3 (—)	4037.5 (215.6%)	3818.1 (94.6%)	5102.5 (133.6%)	4587.7 (89.9%)	4557.0 (99.3%)
成約台数(台)	1104.1 (—)	2366.5 (214.3%)	2142.0 (90.5%)	2914.1 (136.0%)	2826.5 (97.0%)	2920.0 (103.3%)
成約率	59.0% (—)	58.6% (-0.4pt)	56.1% (-2.5pt)	57.1% (+1.0pt)	61.6% (+4.5pt)	64.1% (+2.5pt)
平均成約価格	—	52,760 円 (—)	53,274 円 (101.0%)	47,081 円 (88.4%)	48,745 円 (103.5%)	49,757 円 (102.1%)

*1：リユースコーナー出品台数を回答している会場におけるオークション平均出品台数

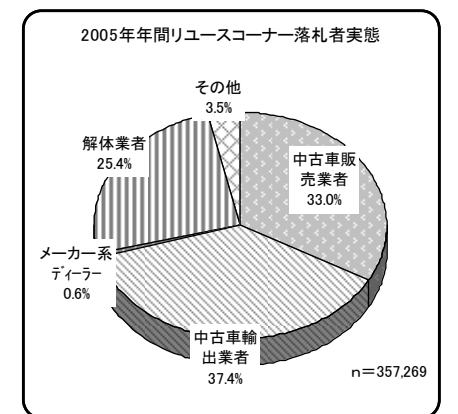
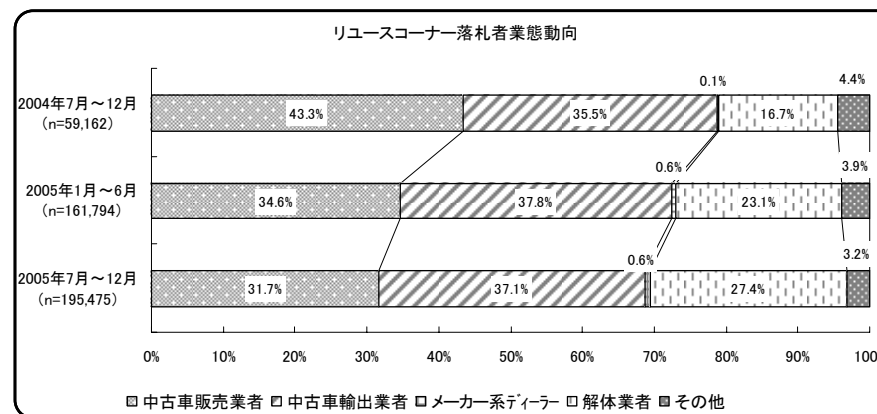
*2：2005年度経済産業省調査結果より（N=23【1月】、29【2月】、31【3月】の平均）

*3：（ ）内は前四半期からの伸び率

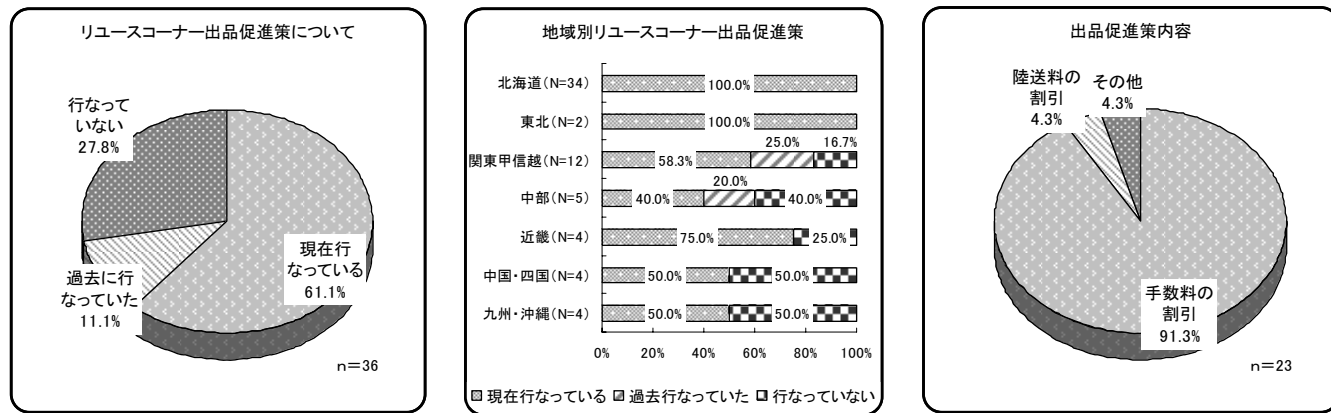
◆リユースオークション落札状況（オークション会場アンケート）

自動車リサイクル法施行後は解体業者における落札比率上昇（16.7% → 27.4%）

リユースコーナー落札者業態動向（オークション会場アンケート結果・落札台数ベース）



◆リユースコーナー出品車両促進策（オークション会場アンケート）



* 複数回答

◆今後のリユースコーナーの展望について（オークション会場アンケート）

今後の展望	内容詳細
拡大する (4)	<ul style="list-style-type: none"> 出品条件を厳格化すれば (2) 中古車輸出の増加、国内販売の二極化等により (1) 今後も増加する (1)
横ばい (6)	<ul style="list-style-type: none"> 低価格車の取引がしやすい環境が整備されたため (2) 景気低迷のため低価格車両の需要がある (1) 低年式車が市場に大量にある場合、一定量はオークションを経由する (1) 下取車の出品は減らない (1) 需要がある限りなくなる (1)
縮小する (2)	<ul style="list-style-type: none"> 認知度は高くなったと思われるが以前ほどの伸びはなくなる (1) 出品数が減少する (1)
不安視する (4)	<ul style="list-style-type: none"> 鉄価格の動向の影響 (2) 法的制限を受けるのでは (1) 輸出国の規則変更 (1)
自会場での展開について (3)	<ul style="list-style-type: none"> 出品量が減少 (1) リユース車両をリサイクルできるようにしたい (1) 拡大したい (1)

◆低年式車・中古車の流通状況について（オークション会場アンケート）

回答内容	内容詳細
今後について	<ul style="list-style-type: none"> 車両検査の精度向上が不可欠 (2) 下取り車両数、需要ともに増加する (1) 出品条件を厳格化していく (1) 如何に各会場が出品車両数を増加させるかがポイント (1) 拡大しすぎると参加会員は不満に思うのでは (1) オークションに限らず低年式車流通の強化推進が必要 (1)
現状について	<ul style="list-style-type: none"> 低年式車流通が活発 (4) 解体業者の落札増加 (2) 輸出業者の落札増加 (2) 他地域からの外国人の参加希望が多い (1) 程度の良い車は一般業者が落札する傾向があり、車種によっては輸出業者と競り合っている (1) 安易に古物商許可が取得できることが影響し、適正な中古車市場になっていない (1)
低年式車両について	リユース車と低年式車の定義があいまい (6)
落札後について	国内では解体扱いになる車両も海外では商品になりうる (1)
	車両落札後の処理方法が不明 (1)

(2) オークション会員における低年式車の落札状況

◆リユースコーナー参加状況（オークション会員アンケート）

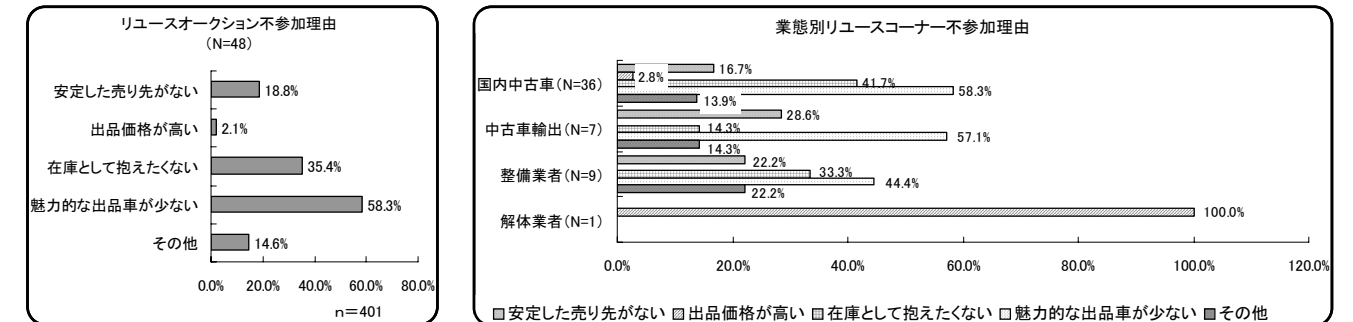
オークション会員のリユースコーナー参加率：76.1%（有効回答 206 会員のうち 158 会員が参加）
輸出業者および解体業者の平均落札台数が他業種と比較して突出

	国内中古車販売業	中古車輸出業	メーカー系ディーラー	整備業者	解体業者	その他	全体
参加割合	72.4%	85.4%	100.0%	63.2%	85.7%	100.0%	76.1%
平均年間落札台数	42.6 台	693.8 台	25.5 台	26.3 台	377.1 台	30.0 台	—
仕入利用率(*)	8.9%	26.9%	1.4%	14.3%	6.6%	5.6%	—

* 2005 年年間仕入台数に占めるリユースコーナー仕入車両台数割合

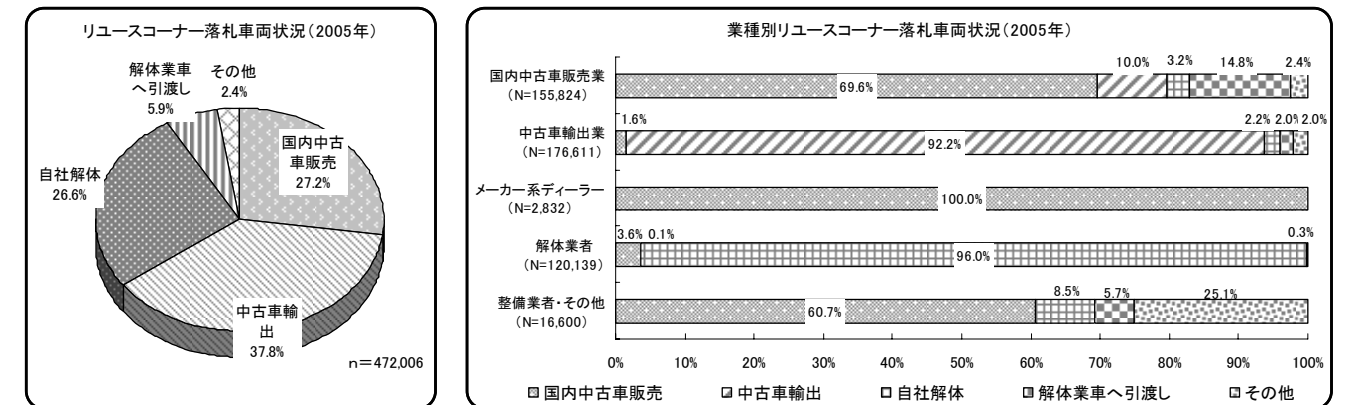
◆リユースコーナー不参加理由（オークション会員アンケート）

国内中古車販売業、中古車輸出業者、整備業者ともに「魅力的な出品車が少ない」が主な不参加理由



◆リユースコーナー落札車両状況（2005 年落札車両）

落札車両の 5.9%が解体業者に引渡され、自社解体と合計すると、解体処理に回った車両は 32.5%



	国内中古車販売	中古車輸出	自社解体	解体業者へ引き渡し	その他	合計
国内中古車販売業	69.6% (108,454 台)	10.0% (15,582 台)	3.2% (4,986 台)	14.8% (23,062 台)	2.4% (3,740 台)	100.0% (155,824 台)
中古車輸出業	1.6% (2,826 台)	92.2% (162,835 台)	2.2% (3,885 台)	2.0% (3,532 台)	2.0% (3,532 台)	100.0% (176,611 台)
メーカー系ディーラー	100.0% (2,832 台)	—	—	—	—	100.0% (2,832 台)
解体業者	3.6% (4,325 台)	0.1% (120 台)	96.0% (115,333 台)	0.3% (360 台)	—	100.0% (120,139 台)
整備業者・その他	60.7% (10,076 台)	—	8.5% (1,411 台)	5.7% (946 台)	25.1% (4,167 台)	100.0% (16,600 台)
全体	27.2% (128,512 台)	37.8% (178,538 台)	26.6% (125,616 台)	5.9% (27,901 台)	2.4% (11,439 台)	100.0% (472,006 台)

* () 内は業者別落札台数推計

◆低年式車・中古車の流通状況について（オークション会場アンケート）

回答内容	内容詳細
リユースオークションについて	<ul style="list-style-type: none"> ・出品者側に良い (11) ・車両の再利用として良い (7) ・低年式車への需要が再発見できた (6) ・価格が高い (6) ・仕入金額が抑制できる (3) ・輸出業者が増加 (3) ・良質な出品車両が少ない (2) ・解体車両は出品すべきでない (2) ・モラルの低い業者が多い (2) ・リユース車はオークションに不向き (2) ・オークションか以上による出品車両の買取り希望 (1) ・輸出促進に良い (1) ・自動車税の重課が懸念 (1) ・商品者と解体車が明確になりつつある (1)
中古車流通について	<ul style="list-style-type: none"> ・オークション情報の氾濫により末端価格が低下している (2) ・一般ユーザーのオークションへの立ち入りを禁止して欲しい (1) ・今後中古車輸出は増加、リサイクル事業は衰退すると思う (1) ・低年式車を始めとした中古車のタマ不足 (1) ・中古車販売専門店は今後厳しい (1) ・低価格車販売が隙間産業ではなくなった (1) ・低年式車両への需要は今後も増える (1) ・オークションは透明性があるので良い (1) ・輸出先での改法への懸念 (1)
オークション会場に対して	<ul style="list-style-type: none"> ・出品車両の詳細データ（出品票）への不満 (16) ・規定不備（クレーム対応）への不満 (4) ・オークション会場の都合でやっている (2) ・手数料価格への不満 (1) ・出品票の英語表記希望 (1)

(3) オークション会場における会員管理状況（オークション会場アンケート）

◆会員登録条件

全会場において「古物商許可」は必須条件であり、次いで条件比率の高い項目は「国内での法人登録(96.6%)」、「国内営業所の有無 (82.1%)」

	古物商許可	国内法人登録(法人)	外国人登録証(外人)	国内営業所の有無	営業実績年数	保証人の有無	現会員の推薦	保証金	事業実施報告書
必要会場割合	100.0%	96.6%	80.8%	82.1% 平均 1.0ヶ所以上	70.7% 平均 1.51年以上	71.4% 平均 1.54人以上	50.0% 平均 1.2会員以上	66.7% 平均 73,750円	50.0%

◆会員管理方法

「入場口でのIDチェック」は82.8%の会場では実施
IDカードの交付枚数に制限をかけている会場では、平均3.1枚の交付

	入場口でのIDチェック	会員外同伴者入場禁止	来場者から無作為抽出後、検査	IDカード交付枚数制限
会員管理方法別実施割合	82.8%	50.0%	5.2%	46.6% 制限会場平均 3.1枚

*全ての会員管理をしていない会場数は0会場

(4) オークション会員の状況

◆業種別会員比率（オークション会場アンケート）

全会員と比較して新規会員では中古車輸出業者の比率が高い

	中古車販売業者	中古車輸出業者	メーカー系ディーラー	解体業者	整備業者	その他
全会員	59.0%	9.4%	9.9%	2.2%	16.1%	3.4%
新規会員	62.4%	16.2%	4.0%	3.0%	12.2%	2.1%

*新規会員は2005年1月～12月に新たにオークション会員になった業者

◆平均加盟会場数（オークション会員アンケート）

オークション参加業者の平均加盟会場数は10.7会場
最も平均加盟会場数の多い業種は中古車輸出業者（平均22.3会場）

	中古車販売業者	中古車輸出業者	メーカー系ディーラー	解体業者	整備業者	その他	全体
平均加盟会場数	9.4会場	22.3会場	11.8会場	8.6会場	10.1会場	7.3会場	10.7会場

(5) 使用済自動車解体能力増加傾向

◆解体処理能力増加状況

新規参入業者→商社、シュレッダー業者、新車販売店、中古車販売店等が自動車リサイクル法施行前後にかけ新規参入、特にシュレッダー業者からの新規参入が大幅に増加
新規参入業者は資本力に優れ、年間処理能力は12,000台以上（月間処理能力1,000台以上）

既存解体業者→新規参入業者等の影響から解体車両入庫減少、対抗手段として一部業者では解体処理能力増強へ。ただ中小規模の業者が中心であり、新規参入業者と比較すると、資本、設備、価格競争力で劣る。解体処理能力を増強できるのは、資本力のあるごく一部の業者に限られる

◆解体処理能力増加量の推計（2003年以降）

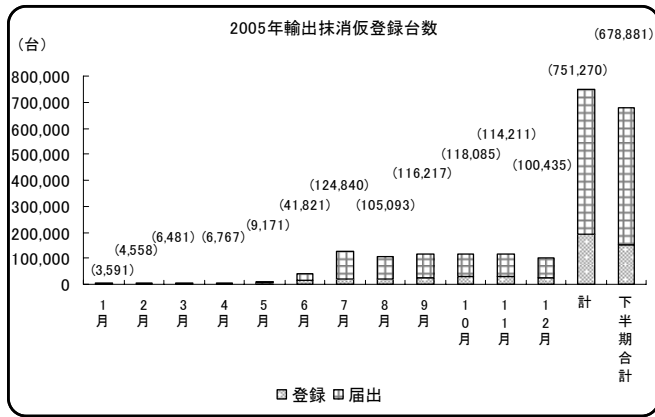
解体処理能力増加量推計：新規業者75万台、既存業者60万台、合計135万台増加
（新規参入解体業者数：35社39工場、既存業者新規工場数：50工場以上）

(6) 輸出中古車流通における流通動向調査

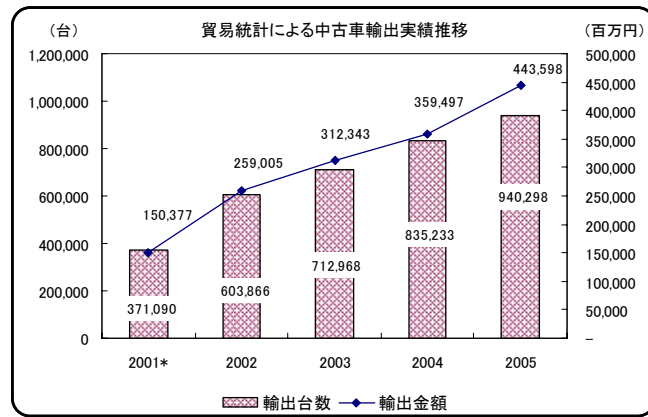
◆中古車輸出台数の推移

海外において高まる日本車需要を背景に、年々増加

2005年の中古車総輸出台数は輸出抹消仮登録台数から140万台程度



出所：国土交通省



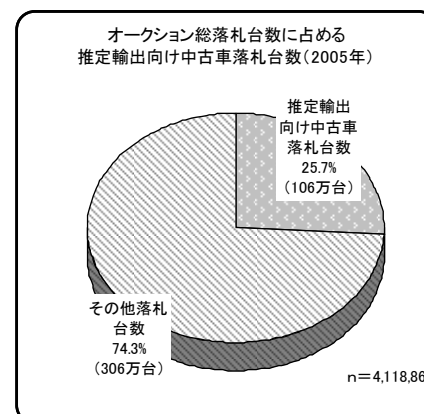
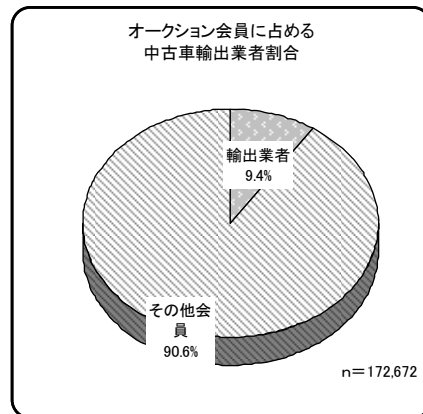
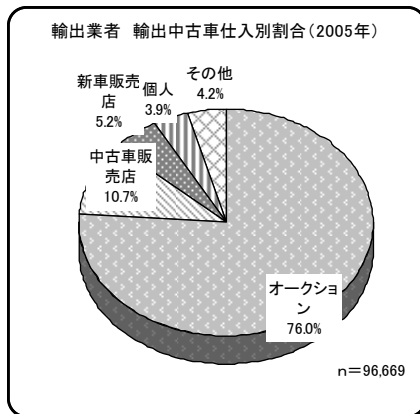
*2001年は4~12月までの数値

*20万円以下の小額貨物、携行品輸出台数(2005年06月以前)を含む

出所：貿易統計

◆中古車輸出におけるオークションの位置付け

輸出中古車におけるオークション落札車割合 (台数ベース) : 76%



*輸出業者における輸出中古車仕入割合は会員アンケート結果

*オークション会員における輸出業者比率はオークション会場アンケート結果

*オークション総落札台数に占める輸出中古車台数推計

140万台 (年間中古車輸出台数) × オークション仕入割合 (76%) = 106万台

◆低年式車の輸出動向

環境保護の観点から、世界的に低年式車に対する規制強化の流れあり

リユースコーナーで低年式車を仕入れても、現状において輸出可能な国は少数

1台当り平均輸出単価は増加傾向にあり、低年式車輸出が大幅に増加したとは考えにくい

リユースオークションにおける輸出向け落札台数は2004年から2005年にかけて7万台弱程度増加

(輸出業者落札台数割合 35%で推計算出)

中古車輸出単価の推移

単位：千円

	2001*	2002	2003	2004	2005
台当り平均単価	405	429	438	430	472

出所：貿易統計